

⑧講義概要(シラバス)

科目名 社会X「情報保障」

担当教員 吉川あゆみ

開講期 後期

BENCH1 BENCH2 BENCH3 BENCH4

一般教育

福祉士

専門演習

アカデミア

計画必修

計援選択

介福祉士

■ 講義のねらい

授業にはノートテイクやパソコン通訳の実技を盛り込み、聴覚障害者支援に求められる最低限のスキル習得をめざします。聴覚障害講師による手話での授業ですので、毎回の授業には手話通訳がつきます。音声での通常授業との違いや、言語モードや文化モードの差異がもたらす齟齬にお互いに直面する時間となることで、皆さん自身が情報保障を受ける経験を通して、「援助を受ける」とはどういうことが再考し、今後の社会福祉活動に活かしていくことを期待します。

■ 講義の概要・進行予定

「コミュニケーション障害」「情報障害」とも呼ばれている聴覚障害者にとって、情報保障は日常生活に不可欠なものであり、情報保障によって自らの活動範囲が格段に広がる可能性を有しています。その一方で、情報保障が聴覚障害者問題を解決するとは限らないところに、聴覚障害者支援の困難さがあります。

ここでは、大学の授業に応じた手書きノートテイクやパソコン通訳等の技術を習得すると同時に、聴覚障害者を取り巻く問題や情報保障の実態を様々な角度から学ぶことで、聴覚障害者に対する理解を深めていきます。大学の情報保障においてはとりわけ、利用者の自立とエンパワメントを促す通訳を提供することが問われてきます。利用者の視点と援助者の視点をどのようにすり合わせていくかに、情報保障の魅力があると言えるでしょう。

- 【1回】聴覚障害者とコミュニケーション
- 【2回】コミュニケーションと情報保障
- 【3回】当事者から見た情報保障
- 【4回】情報保障の各手段とその実際
- 【5回】情報保障体験(1)手書きノートテイク I
- 【6回】情報保障体験(2)手書きノートテイク II
- 【7回】情報保障のルールとマナー
- 【8回】情報保障体験(3)パソコン通訳 I
- 【9回】情報保障体験(4)パソコン通訳 II
- 【10回】わが国における情報保障体制
- 【11回】国外の聴覚障害者学生支援の動向
- 【12回】大学における聴覚障害者学生支援
- 【13回】利用者に応じた情報保障と通訳コーディネーター
- 【14回】まとめ～情報保障の可能性と課題～
- 【15回】筆記試験

■ 使用教材

【テキスト】授業時に提示します。

【参考文献】吉川あゆみ他「大学ノートテイク入門」人間社、2001

日本聴覚障害者学生高等教育支援ネットワーク編著『大学ノートテイク支援ハンドブック』人間社、2007

■ 成績評価

【出席確認】毎回の出欠およびリアクションペーパーで確認します。

【評価方法】出席、リアクションペーパー、授業や実技での積極性、試験を総合して評価します。特に出席を重視します。

【評価基準】出席(60%)、リアクションペーパー(10%)、授業での積極性(10%)、実技での積極性(10%)、試験(10%)

■ 学習上のアドバイス

手話による授業ですので、音声でなく手や顔の動き等、目に見える形で反応を出すことでコミュニケーションがよりスムーズになります。今までとは異なるコミュニケーション回路が求められますので、異文化に飛び込んだ気持ちでコミュニケーション力を磨いていきましょう。

8-110

BENCH1 コミュニケーションの仕組みを理解できる
BENCH2 的確に言語的メッセージを送信・受信できる

BENCH3 非言語的メッセージを理解し活用できる
BENCH4 コミュニケーションが成立する場をつくることができる